



官民研究開発投資拡大プログラムに関する 内閣府の取組状況について

平成29年6月27日

エネルギー・環境イノベーション推進WG事務局

平成29年4月21日にPRISMに係る研究開発投資ターゲット領域が決定された

資料3

官民研究開発投資拡大プログラムについて

PRISM (Public/Private R&D Investment Strategic Expansion Program)

平成 2 9 年 5 月
内閣府政策統括官
(科学技術・イノベーション担当)

(1) 予算編成プロセス改革アクション

今後、新型推進費の導入を含めてSIP事業を継続・発展させ、二本立ての施策の相乗効果を発揮。

- 官民で民間投資誘発効果の高いターゲット領域を設定（研究開発成果活用による財政支出の効率化への貢献にも配慮）。関連施策の提案を各省庁から求めCSTIが対象施策選定。
- 新設する「科学技術イノベーション官民投資拡大推進費（仮称）」を活用して事業費の一部を内閣府からも拠出。（平成30年度に創設。SIP事業を継続・発展させつつ財源を確保することを想定。その際、関連施策の見直しを進めるとともに、社会実装に向けた民間投資の拡大も推進）
- 対象施策は、予算編成過程で適切な予算措置が講じられるよう、経済財政諮問会議、財務省等と連携。
- CSTIはターゲット領域ごとに領域統括（仮称）を指名。現行SIPの優れた特徴を備えたマネジメントを適用。
- 対象施策は、ステージゲート方式による評価を導入。

※SIP：戦略的イノベーション創造プログラム

科学技術イノベーション官民投資拡大イニシアティブ（最終報告）（概要）
～経済社会・科学技術イノベーションの活性化に向けて～

■ 600兆円経済の実現に向け、成長のエンジンである科学技術イノベーションの活性化等を図るため、平成28年6月、経済財政諮問会議と総合科学技術イノベーション会議（CSTI）の下に「経済社会・科学技術イノベーション活性化委員会」を設置。同年12月に最終報告取りまとめ。

1. 基本的考え方

- CSTIの司令官機能の強化を図り、Society 5.0の実現に資する科学技術予算の量的・質的拡大を目指す。
- 産業界と連携を図りながら、イノベーション創出を阻害している制度、仕組みを徹底的に見直し、効率的な資源配分の仕組みを構築。
- 「科学技術基本計画」で定められた「政府研究開発投資の目標（対GDP比1%）」（※）の達成、大学等への民間投資の3倍増を目指すなど。

（※）「経済社会再生計画」の取組目標（対GDP比1%）とする。期間中（平成28年度～32年度）のGDPの名目成長率を平均3.3%という前提で試算した場合、期間中必要とされる政府研究開発投資の増額は約26兆円となる。

2. 経済社会・科学技術イノベーションの活性化に向けた「3つのアクション」

CSTIの司令官機能を強化し、科学技術や研究人材投資に関する予算の量的・質的拡大を目指すほか、制度改革を通じた民間資金の導入を拡大。科学技術イノベーション予算の抜本的強化を通じ、SIP及びIMPACTの拡充を含めた継続的実施を図り、事務局体制の強化を実現すべし。

<p>(1) 予算編成プロセス改革アクション</p> <p>今後、新型推進費の導入を含めてSIP事業を継続・発展させ、二本立ての施策の相乗効果を発揮。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 官民で民間投資誘発効果の高いターゲット領域を設定（研究開発成果活用による財政支出の効率化への貢献にも配慮）。関連施策の提案を各省庁から求めCSTIが対象施策選定。 ■ 新設する「科学技術イノベーション官民投資拡大推進費（仮称）」を活用して事業費の一部を内閣府からも拠出（平成30年度に創設。SIP事業を継続・発展させつつ財源を確保することを想定。その際、関連施策の見直しを進めるとともに、社会実装に向けた民間投資の拡大も推進）。 ■ 対象施策は、予算編成過程で適切な予算措置が講じられるよう、経済財政諮問会議、財務省等と連携。 ■ CSTIはターゲット領域ごとに領域統括（仮称）を指名。現行SIPの優れた特徴を備えたマネジメントを適用。 ■ 対象施策は、ステージゲート方式による評価を導入。 <p><small>※SIP：戦略的イノベーション創造プログラム</small></p>	<p>(2) 研究開発投資拡大に向けた制度改正アクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 産業界からの投資拡大のための大学改革等、制度改革を実施。 ① オープンイノベーションの促進に向けた大学善後改革と産学連携の深化 <ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な資金の獲得の促進等 ② 研究開発型ベンチャー創出の促進 <ul style="list-style-type: none"> ■ 国立研究開発法人ベンチャー創出促進等 ③ 新たな市場創出に向けた公共調達への拡大 <ul style="list-style-type: none"> ■ 革新的技術を採用しやすい仕組みの導入等 ④ 科学技術イノベーションを促した地域活性化 <ul style="list-style-type: none"> ■ 企業版ふるさと納税の積極的活用等 ⑤ 科学技術イノベーションを促す人材投資の促進 <ul style="list-style-type: none"> ■ 産学連携による人材プログラム等の創設等 ⑥ 科学技術イノベーション創出に効果的な予算の構築 <ul style="list-style-type: none"> ■ 産学共同先導（TRL）の導入等 	<p>(3) エビデンスに基づく効果的な官民研究開発投資拡大アクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エビデンスに基づくPDCAサイクルの確立や政策効果等が見える化を進め、効果的な官民の研究開発投資を促進。 ■ インフラからアウトプット、アウトカムに至る情報を体系的に収集・蓄積し、連携。 ■ 重要政策課題に関するエビデンスを構築し、政策形成に活用。 ○ 科学的なデータ収集・エビデンス構築 ○ 科技関係予算の分析等 ○ 重要政策課題の調査分析 ○ ターゲット領域の選定に資する情報提供等
---	---	--

3. 経済社会・科学技術イノベーションの活性化の実現に向けて

- CSTIの司令官機能強化とこれを支える事務局機能の強化、他の司令官機能との連携等の深化。

アクション1：予算編成プロセス改革

～官民研究開発投資の量的・質的拡大～

呼び水となる政府SIP事業予算を拡充 + 民間による研究開発投資の飛躍的拡大

既存のSIPの継続

SIP: 戦略的イノベーション創造プログラム

目標/特徴

- 出口戦略の明確化 / PDへの権限集中
- 府省連携
- 産学連携

CSTIの機能

- 自らプログラムを構築、厳格に進捗管理
- 「SIP型マネジメント」モデル構築
 - オープンイノベーションモデル
 - 府省連携モデル
 - PD中心のマネジメントモデル

官民研究開発投資拡大プログラムの導入

(新型SIP)

目標/特徴

- 官民で民間投資誘発効果の高いターゲット領域を設定(研究開発成果の活用による財政支出の効率化への貢献にも配慮)。
- CSTI/産業界が選定した各省提案事業に推進費をアドオン
- 各省主導の施策を民間投資誘発効果の高い分野へ誘導

CSTIの機能

- 新型推進費をレバレッジとして、「SIP型マネジメント」を各省に拡大
- 領域統括(仮称)を通じた関連施策の連携促進やステージゲート方式による評価の拡大等



相乗効果

CSTIによる司令塔機能の発揮 (SIPパイプラインの構築)

- 画期的なSIPモデル・研究開発成果 各省への展開を図り、産業界との協力を拡大
- 各省主導では実施できない事業の推進 各省事業に対する司令塔としての関与(進捗管理等)

産業界

- PDの派遣等によるプログラム共同実施/協調領域(オープンイノベーション)の拡大
- 社会実装に向けた民間投資の拡大も推進

NESTIに関連する4領域

官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）に係るターゲット領域

科学技術イノベーション官民投資拡大推進費を用いて実施する官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）に係るターゲット領域について、4月21日に開催された総合科学技術・イノベーション会議において以下のとおり決定。

平成30年度に設定することを前提に準備を進めるターゲット領域（3領域）

- ・ 革新的サイバー空間基盤技術 **(AI / IoT / ビッグデータ)**
- ・ 革新的フィジカル空間基盤技術 **(センサ / アクチュエータ / 処理デバイス / ロボティクス / 光・量子)**
- ・ 革新的建設・インフラ維持管理 / 革新的防災・減災技術

平成31年度以降に設定することが望ましいターゲット領域候補（10領域）

- ・ 革新的データベース構築・利活用技術（System of Systems）
- ・ 革新的ICTプラットフォーム技術（サイバーセキュリティ/ネットワーク/プロセッシング）
- ・ **革新的蓄エネルギー技術/革新的省エネルギー技術**
- ・ 革新的自動車交通技術/革新的三次元地図情報活用技術
- ・ 革新的ものづくり技術
- ・ 革新的介護・くらし支援技術
- ・ 革新的バイオ産業基盤技術
- ・ 革新的食料生産流通技術
- ・ 革新的医療・創薬技術
- ・ **革新的素材/革新的材料開発技術**

※ 上記方針に基づき、各年度に設定するターゲット領域については、本プログラムへの予算措置や運用状況、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）における次期課題等を勘案しつつ、ガバナンスボードにて調整。

関連する6つの技術について記載

エネルギーシステム統合技術

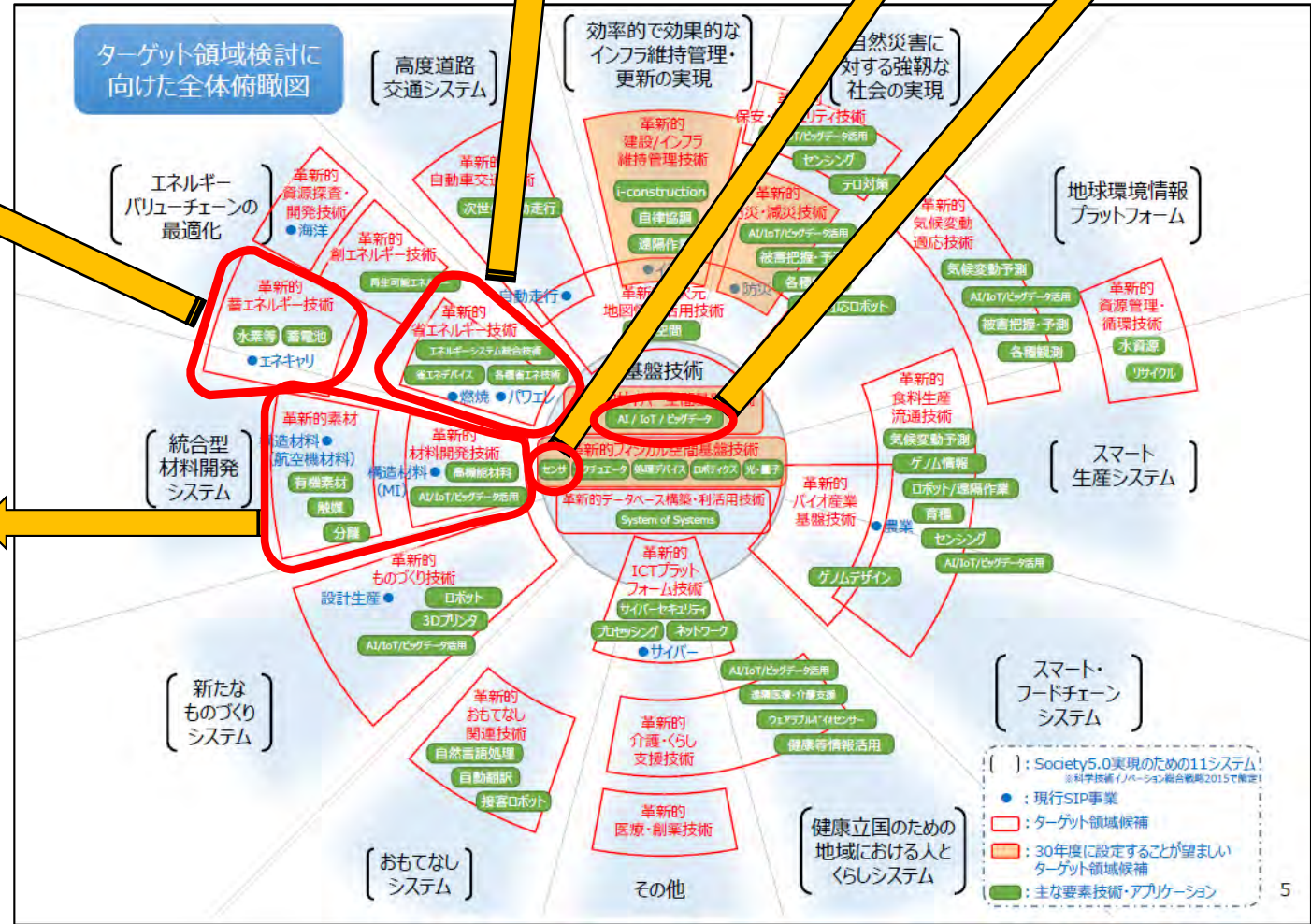
H30年度に設定

革新的センサ

次世代パワエレ

- 3 次世代蓄電池
- 4 水素等製造・貯蔵・利用

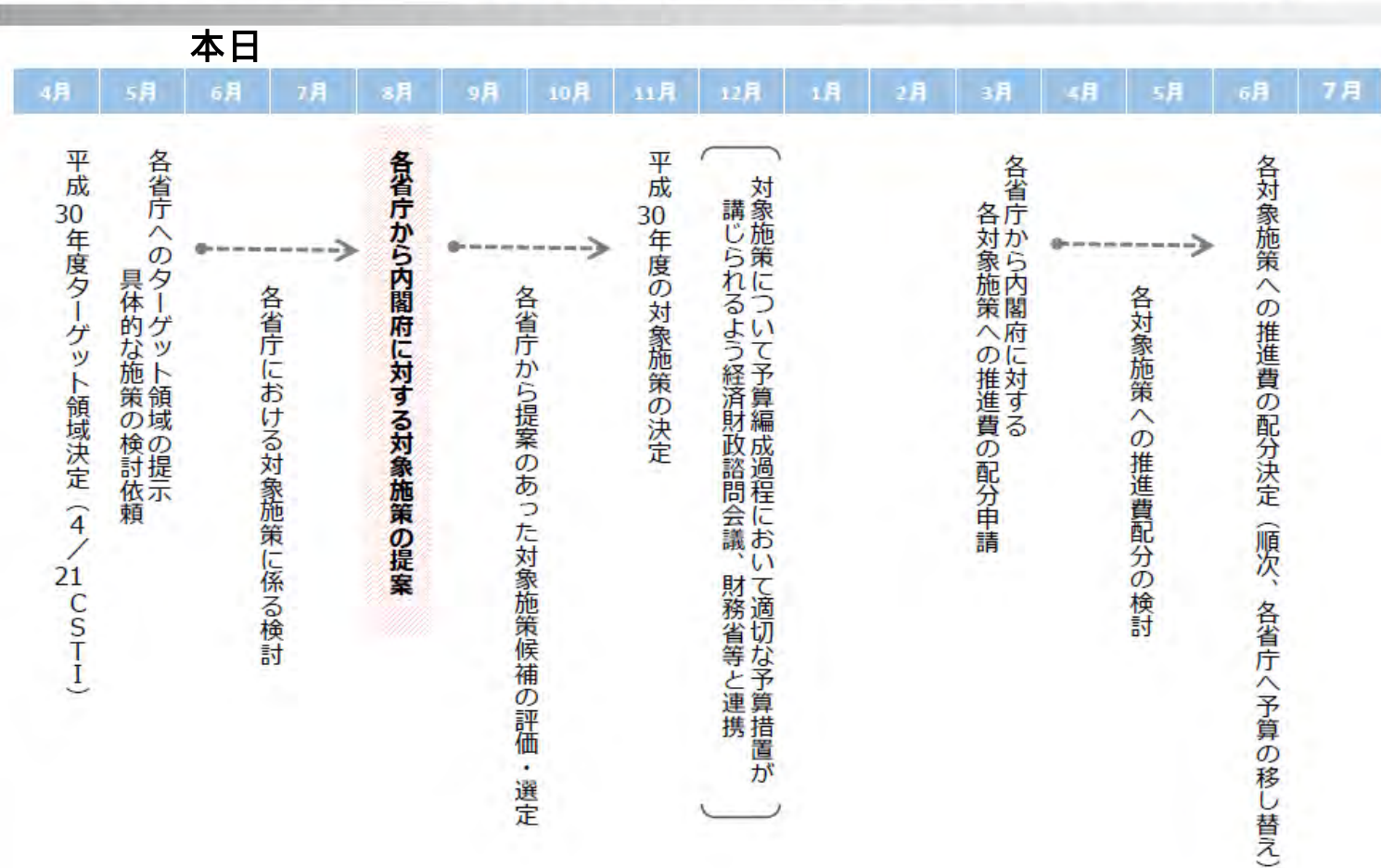
2 超軽量・耐熱構造材料



[] : Society5.0実現のための11システム
 ※ 科学技術イノベーション戦略2015で設定
 ● : 現行SIP事業
 □ : ターゲット領域候補
 ○ : 30年度に設定することが望ましいターゲット領域候補
 ● : 主要素技術・アプリケーション

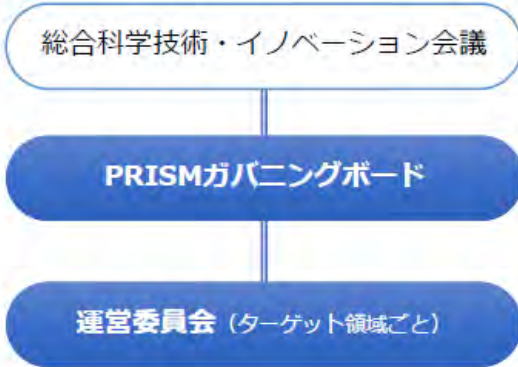
日程

官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）に係るスケジュールについて



体制

官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）に係るマネジメント体制



議長：内閣総理大臣
 議員：官房長官、科技、総務、財務、文科、経産 各大臣
 有識者議員（8名）

CSTI 有識者議員（8名）
 久間和生、原山優子、上山隆大（常勤）
 内山田竹志、小谷元子、橋本和仁、十倉雅和、大西隆（非常勤）

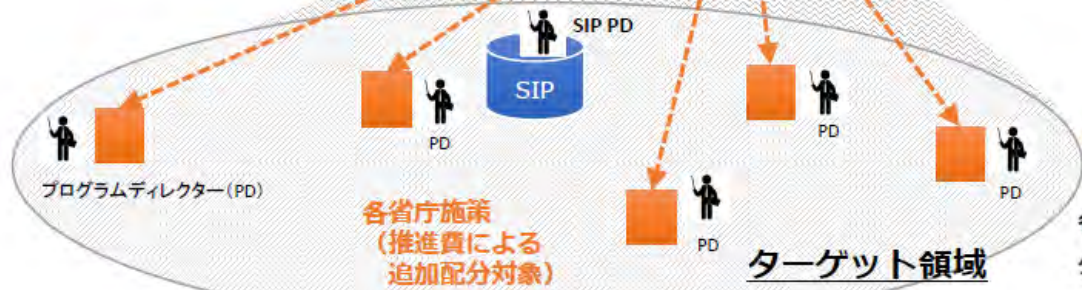
座長：領域統括 / 委員 3～5名程度

- ① 担当ターゲット領域の「実施方針」の策定
- ② 各省庁から提案される《対象施策》候補の評価・選定
- ③ 《対象施策》への予算の追加配分
- ④ 《対象施策》間の連携促進
- ⑤ 《対象施策》に係るステージゲート評価
 （3年目以降に実施）

運営委員会
 座長：領域統括

各省予算による研究開発に加え、
 推進費のアドオンによる追加の研究開発を一体的に運用

- ・研究開発の加速
- ・新規研究開発の前倒し
- ・事業化への取組みの加速 等



関係省庁

各省庁は、領域統括が策定する「実施方針」に鑑み、
 ターゲット領域に係る施策(対象施策)候補を提案